

「行政改革推進市民懇話会」第5回会議の概要

総務部行政改革推進室

- 1 開催日 平成15年8月5日(火)
- 2 会場 市役所5階会議室
- 3 会議時間 午後4時開会、午後5時55分閉会
- 4 出席委員 24名
- 5 欠席委員 6名
- 6 市出席者 22名(堂故市長、中田助役、木下収入役、國本企画広報室長、前辻総務部長、横澤市民部長、横山建設部長、飯原産業部長、大門市民病院事務局長、舟塚教育次長、吉崎企画広報室次長、永田行政改革推進室長、船場総務課長、尾崎財務課長、行政改革推進室職員：濱井、廣瀬、高橋、東海、東軒、高林、九澤、京田)
- 7 傍聴者 6名(議員5名、川崎議会事務局長)
- 8 協議案件

提言書の取りまとめについて

6月に提出した中間報告及び前回の全体会議で了承された補助金等の見直しに関する提言案並びにこれまでの議論等の経過を踏まえ、「行財政の健全化、効率化に向けて」の提言書(案)が会長私案として示され、市民のコンセンサスづくりや、進行状況の管理、まちづくりの将来展望等を中心に議論が行われた。

協議の結果、提言書案が概ね了承され、8月7日に会長から市長に報告することとなった。

中期財政見直しについて

事務局から、平成14年度の決算が確定したこと、平成15年度の普通交付税が決定されてきたこと、平成15年度の市税収入の動向がつかめてきたこと等により、中期財政見直しに変更が生じることとなり、上方修正が見込まれる差額については、今後の公債費負担を軽減するため、減債基金に積み立てる案が示され、了承された。

9 会議録（発言の要旨）

主な発言内容(要旨)	
会長	<p>この懇話会は、4月24日に第1回会議を開催してから今日で第5回目となるが、行財政健全化部会や補助金等審査部会の精力的な努力や懇話会各委員の協力によって、最終の提言を取りまとめるという段階にまで辿り着くことができた。各委員には感謝したい。</p> <p>前回の会議だったと思うが、行革に取り組む姿勢に緊張感が欠けているのではないかとの発言が出た。そういった心配はないと思っていたが、自分の耳にも若干の不協和音的なことが漏れ聞こえてきた。しかも、それが市民をリードする立場の人間からも出ていると聞いて、誠に残念に思っている。</p> <p>ただ、昔の言葉に「最も美しい和音は不協和音を作る。」という言葉があり、今の不協和音が最も美しい和音を作ってくれる前兆であろうと信じ、期待している。</p> <p>もし、今日で提言がまとめられれば、2、3日中にこの提言書を市長に提出することになる。これを機会に禪を締め直して、議員をはじめ市職員の積極的な取り組みとリーダーシップの発揮を期待している。よろしく願いたい。</p> <p>今日の会議は提言の取りまとめが中心になるが、いつも通り2時間程度を予定している。最初に市長から一言いただきたい。</p>
市長	<p>委員には、忙しい中、本日の全体会議に出席してもらい、誠に感謝している。早いもので、この懇話会も今日で5回目を重ねることとなった。</p> <p>これまで、全体会議のみならず、2つの部会においても精力的に開催し、熱心に議論を積み重ねてきてもらったことに対し、厚く感謝したい。</p> <p>本日の会議では、会長私案を基に、提言の取りまとめについての議論が行われると聞いており、今日が一つの区切りになるものと受け止めている。</p> <p>市としては、市民懇話会の提言や、市議会の意向等を踏まえ、各部局において改革案の具体化を急ぎ、8月末を目途に、「行財政健全化緊急プログラム」を取りまとめていきたいと考えている。</p> <p>特に、人件費の抑制問題については、職員労働組合と精力的に協議を重ねており、改革への理解と、早期の解決に向けて、協力を求めていきたいと考えている。</p> <p>また、市民に対しては、先日も金融協会の方で音頭をとってもらい、市民向けの講演会を企画してもらった。</p> <p>これからも市の広報やホームページ、ケーブルテレビ等を通じて、行財政改革の必要性や取組内容を伝えていくほか、市長のまちかどトーク、職員による出前講座など、あらゆる機会を活用して、理解と協力が得られるよう努めていく。</p> <p>さて、先日、平成15年度の普通交付税が決定した。後ほど事務局から説明するが、通常、予算を組む時期は年の当初であり、しかも堅く計算する。特に収入の大宗を占める交付税については堅く見込む傾向にある。</p> <p>ところが、実際に地方に交付されるのは7月の終わりごろで、時期に差がある。その間に制度改正等があり、最終的に見込み額より増えてきた。</p> <p>収入増となる部分については、将来の公債費負担を軽減するため、減債基金に積み立てていきたいと考えている。</p> <p>このほか、平成14年度の決算が確定したことも併せて、「中期財政見通し」に若干の変更が生じてきたので、後ほど事務局の方から、詳細について報告する。</p> <p>何回も言っているが、合併しないからこそ実現できる氷見の良さを生かしたまちづくりを進めていきたい。そのための改革を進めようとしている。委員にはこれまでどおり率直な意見や提言を出してもらい、十分審議願いたい。</p>
会長	<p>それでは早速だが今日の会議は行財政の健全化、効率化に向けての取りまとめということで進めていきたい。</p>

主な発言内容(要旨)

提言書案については、先般、市長に提出した中間報告に補助金・負担金に関する見直しを追加する形でまとめてみたので、その中身について若干説明したい。

各委員には、先に会長私案という形で提言書案を送付しているの、それを見てもらいたいが、まずP1には「提言にあたって」ということで、前段には、中間報告を提出するまでの経緯を書いた。また、この提言案は中間報告に反映できなかった補助金・負担金の見直し部分を追加する形でまとめた。

今日の提言内容については、市が策定する行財政健全化緊急プログラムに反映し、早期に実行されることを強く要望する。

また、国の三位一体改革が具体化することにより、地方交付税に依存している氷見市の財政に大きく影響を及ぼすことが想定されるが、当懇話会としても市民の幸せと市の発展を願い、市民の立場にたった行政改革を推進するため、逐次進行状況の報告を求め、意見や提言を通して、改革の実効の確保に努めていきたいという風に考えている。

P2～13までについては、中間報告のとおりであるので説明は省く。

次にP14～16にかけて、「補助金・負担金の見直し」について書いたが、前回の全体会議において、補助金等審査部会の案で概ね了承してもらったと考えており、前回の見直し案をそのまま載せてある。何か不十分な点があれば、今日の会議で議論してもらいたい。

次にP17～20にかけて、「改革の実現に向けて」ということで、前回はあまり議論する時間がなかったが、何か叩き台が必要であるので、私案としていくつかの項目について書いた。

まず、1つ目に「市民のコンセンサスづくり」の部分について、行政改革の実行にあたり、市民、議会、関係団体、市職員等の理解と協力が何にも増して重要になってくるので、あらゆる機会を活用し行財政の状況をオープンにすることにより市民総ぐるみの改革となるようコンセンサスづくりに努めてもらいたいということを書いた。

また、市長の話にもあったが労使協議の交渉経過も逐一公表してもらいたい。

2つ目の、「職員の意識改革の徹底」については、中間報告の中で「改革の実現に向けて」という部分があったが、同内容となっている。

3つ目の「進行状況の管理」については、市の行政改革推進本部において責任をもって推進されるよう強く要請するが、実施状況については、市長の話にもあったが、広報ひみ、市のホームページ、行政チャンネル、出前講座等、あらゆる手段で市民にわかりやすい形で随時公表し、市民の協力を求めていくという形で進めてもらいたい。

また、過去の懇話会の中で何人かの委員の発言にあったが、提言の趣旨がどのように反映されたか、或いは、実効性の担保といったことについて、懇話会が市民によるチェック機関として実施状況の報告を求めたり、或いは改革に対する意見や提言を行っていきけるような体制が必要だと思う。

それから、P19の「まちづくりの将来展望」については、今までのような右肩上がりの経済成長というものなかなか望めない。限られた財源を市民の必要とする施策に重点的かつ効果的に配分することにより、市民にとって真に豊かな生活が実現できるよう努力をしてもらいたい。

また、全体が縮小に向かう中で元気の出る部分として既存の施設や基金等の資産をより有効に活用していくことが求められている。

特に基金については、それぞれの目的に沿って市民サービスの向上に役立てるための活用方法を検討することが必要だろうと考えられるので、1つ1つ丁寧に精査していただきたい。

そのためにも市民参加のもと、市民が主役、市民との協働によるまちづくりを進

主な発言内容(要旨)

めるとともに、地域の活性化と魅力あるまちづくりを目指して取り組んでもらいたい課題をいくつか挙げた。

それから、「構造改革特区」についても少し触れてみた。中間報告には書いてなかった部分だが、国の制度として市の特性を生かし、経済活性化戦略として状況を整えば、こういった国の制度も積極的に活用してもらって、経済の活性化という観点から、いろいろ積極的に対応してってもらいたいということで、中間報告から新たに付け加えた。

次の「地方分権への対応」については、中間報告で示したとおりである。

以上が今回、会長私案ということでまとめた中間報告以外の部分である。

今日は、この提言案について発言をもらいたいと思うが、その前に先ほど市長も言っていたが中期財政見通しについて、平成14年度の決算が確定したこと、平成15年度の普通交付税が決定したこと、平成15年度の市税の見込みがつかめてきたこと等により、若干数字が変わってきているので、それらについて事務局の方から、その対応も併せて説明してもらいたい。

財務課長

中期財政見通しについて一部修正があったので説明する。

見直しの主な要因としては、平成14年度の決算が確定したこと、平成15年度の普通交付税が決定(7月25日に国が発表)したこと、平成15年度の市税の動向がつかめてきたこと等がある。この中で特に中期見通しに影響してくるのは普通交付税の部分だが、修正前はH15で6,541百万円の交付税を見込んでおり、H14の決算額の7,074百万円と比べ、国が地方財政計画の中で示した7.5%と同程度の減を見込んでいた。

ただ、実際に決定した額は7,002百万円でH14の決算と比べ1%に留まり、当初の見込みと比べ460百万円の増となった。

誤差が生じた理由としては、市長も言っていたとおり、交付税は昨年末から年当初にかけて試算しており、実際に国で交付税が決定されるのは、地方税収入が確定した後の7月末ということで時期に差があるということと、市が試算した時点では制度改正による単位費用の増減等については予測できないことによることの2つの主な要因がある。

全国的な総額としては、地方財政計画どおり7.5%で交付されている。

県内9市の当初見込みを見てみると、平均で10.1%であったが、実際には、平均で2.1%であった。氷見市においては、1.1%だった。

氷見市では、どの部分で誤差が出てきたのか分析してみると、460百万円の差の内、約100百万円は、福祉関係(老人医療、国保医療、知的障害者、生活保護等)の分野で制度改正等があったこと、また、市税収入が130百万円の減となり、その内の75%が交付税措置されたことにより100百万円の増となった。残りの260百万円については、地方交付税の臨時財政対策債への振替分が予想より少なく、交付税に算入されてきた分である。

このままの状態ですと、普通交付税の制度が現行のままでいくとすれば、H15～18の4年間で922百万円が使える財源として見込まれる。

修正前の累積赤字5,813百万円から922百万円を単純に差し引けば、4,891百万円になるが、その用途については、市としては、用途の定められていない「財政調整基金」に積み立てるのではなく、公債費に用途が限られている「減債基金」に積み立てることにより、後年度の公債費負担に備えたいと考えている。

その理由としては、地域総合整備事業債(ふれあいスポーツセンター、海浜植物園、湊川環境整備事業等における地方債)は、財政力に応じて元利償還金の一定割合(氷見市は約54%)が地方交付税に算入されるが、H3～H10の間に借り入れたものについては、氷見市が実際に償還する年限(15年または20年)に關係な

主な発言内容(要旨)

	<p>く、一律10年の理論償還方式によって算入されることから、地方交付税は償還期間の前半に前倒しして配分されている。</p> <p>この前倒し算入分については、これまでも逐次減債基金に積み立てており、H14末で1,200百万円余りを確保したところであるが、今後 H18までの間に、さらに1,080百万円の積み増しが必要となっている。</p> <p>中期財政見通しでは、H15以降については、財政的余裕がないため、減債基金への積み立て分は見えていない。財源不足の解消策の1つとして公債費を極力減らすための財源に使いたいと考えているが、今回の財政見通しには影響のない部分であり、この部分については、提言を受けて、行財政健全化緊急プログラムを作成する段階で修正をかけたい。その点も含めて今日は討議願いたい。</p>
会長	<p>報道関係者には、ここで退室願いたい。なお、会議の内容については会議終了後、要望があれば会長が一括して答える。</p> <p>今、事務局から説明があったが、中期財政見通しについては H15～H18において922百万円の収支改善が見込まれるが、その差額については、公債費に用途が限定された減債基金に積み立てるということだった。</p> <p>これはつまり、借金を払っていかなければならないが、交付税として先にもらってしまったのでその分を積み立てておいて逐次返済していくという趣旨だと思う。中間報告での財源不足解消では、財政調整基金を約900百万円取り崩すことになっていたのが結果的には相殺されていくことになると思う。このことに関して質問はないか。</p> <p>(質問なし)</p> <p>無いようなので、ここからは提言の取りまとめということにしばって発言願いたい。</p>
行財政検討部会副部長	<p>提言書案ができたが、人件費削減の問題等も含まれているので、難しい問題もあると思うが、市当局は、この提言に沿って進めてもらいたい。</p> <p>市職員全体が一致団結し、市民とともに市の財政を根本的に立て直していく第一歩として位置付け、突っ込んだ話し合いをしてもらいたい。</p> <p>根本的な問題として、財政状況が非常に悪いということが大前提にあり、このままいけば財政が破綻してしまうということを常に念頭に置いて、この提言に沿った改革ができることを希望している。</p>
委員	<p>この案を提言として出すことに異議はないが、提言案の中の「改革の実現に向けて」のところで職員の意識改革の徹底という部分があるが、結局今までは市役所の職員は、市民が用件を頼みに来ればやってやるといった姿勢だったように思う。</p> <p>これからは、公務員もサービス業であり、営業活動のように市民はおお客様であるという意識を持って取り組んでもらいたい。</p>
委員	<p>改革の中で占める大きなウェイトは、人件費の削減の部分になると思う。</p> <p>新聞等でも報道されているが、退職前の特別昇給制度については、初めてそういった事実を知った。全国的なことではあるが、とにかく人件費の削減については、細部にわたる項目等について、いち早くかつ確実に実施し、より一層の削減に向けて努力してもらいたい。</p>
委員	<p>この提言を策定していく過程で思っていたのは、当然のことながら提言は第7次の氷見市総合計画を踏まえて作られていると思うが、今回の議論をもう一度大きな視点で見直していた。</p> <p>第7次総合計画には自分も一部参加させてもらったが、非常に時間的にも空間的にもH14から10年間を見通した形で入念に組み立てられているはずで、今回の企画も第7次総合計画を踏まえてのことだと思う。特に第7次総合計画の中で基本計画の推進のためにということでも2本柱になっていた。</p>

主な発言内容(要旨)

1つには市民主役の計画の推進、もう1つは、今日の議論にも絡んでくるかもしれないが、国・県等との連携による計画の推進ということが、はっきりと掲げられている。

今日の話の中でも構造改革特区など新しい発想が出ているようだが、困難で苦しい時期であればあるほど、そうした基本計画の柱等も勘案しながら進めていってもらいたい。

委員

この提言書案は中間報告からいくらかの追加もあるが、きちんとまとめられていると思う。

この中で、中間報告に新たに追加された「まちづくりの将来展望」という部分に一番興味がある。

市の企画広報室においても、市民アイデアオリンピックということで市民が参加して新しい事業をやっていこうという企画があったので自分も応募したが、なかなかいいアイデアが浮かばなかった。

今、子供が東京の大学に行っているが、卒業する4～5年後に、果たして氷見が楽しい氷見だということで帰ってくるかどうか、この4～5年の間にきちんと行財政改革を行ってもらって、楽しめる氷見市になっていれば息子も帰ってくるのではないかと思っている。自分も若い時は東京の方へ行っていたが、北陸に戻ってくると暗いなあといつも思っていた。

魅力のあるまちづくりが出来れば、市の人口も間違いなく増えてくる。年をとった人が懐かしいふるさととして帰ってくる氷見より、若い人達が帰って来たいと思うような氷見市を作っておくことが大事だと、この提言案を見ていて実感した。

ただ、いろんな建物があって、テーマパーク的なものがある所が良い所だとは思わない。氷見市独特の味のあるものがあれば、若者は喜んで帰ってきて、自分達と同じように氷見市の一員となって子孫を残していってくれるのではないかと思うので、この提言のとおり改革が進めば、人口も増えていくのではないかと思う。

委員

この提言書は短期間でよくまとめたと思う。

ただ、作った以上は、この提言に則って一步一步実現に向けて進めていってもらいたい。

それから、冒頭の市長のあいさつにもあったが、氷見市単独でやっていくのならば、自分の家庭に例えるなら、収入に応じた支出の仕方というものがあると思う。そうしないと借金漬けになって大変なことになる。

また、一般企業では労働分配率というものがあり、平均で言うと、売上げなら粗利に対して60%程度だと思う。残りの40%は投資や株主への配当、会社の積立金になっていくと思う。そう考えると市の場合は投資というものは無いので、だいたい市税収入の80%ぐらいが人件費の基準になるのではないかと思う。将来的にそういった基準に則った見方・考え方をしていく必要があるのではないかと、この提言を作っていくうえで思っている。

そういう面では、改善後の中期財政見通しでは、市税に対する人件費の率はH18では約83.5%、H17では約84.6%になっており、徐々に改善の兆しが見られている。

また、補助金については、補助金等の交付基準が設けられており、基準に沿って交付していってもらいたい、これに縛られ過ぎるのは良くない。基準に2つの見方を加えたらどうかと思う。

1つには、将来を見通した補助金、もう1つには、氷見市がより活性化できるような事業を立ち上げるための補助金というものを基準に取り入れて、この基準以外のものについても政策的な見方というものがいいと思う。

せっかく作った提言書であるので、是非この提言に則った形で実行してもらえ

主な発言内容(要旨)	
委員代理	<p>ば、もっと生き生きした氷見市になるのではないかと思います。</p> <p>この懇話会には初めての参加で提言書案を見せてもらったが、将来のためにすぐ良い提言書になっているのではないかと思います。</p> <p>早期に実現できるように頑張ってもらいたい。</p>
委員	<p>歳出面に議論の大半が集中し、そういったことが反映された立派な提言書の内容になっていると思うが、歳入の中身について1つ聞きたい部分がある。</p> <p>受益者負担の項目の中で、サービスに応じた負担について、無料のものも含めて、受益者負担のあり方を見直し、適正化を図ると書いてある。ごみの問題や水道料の問題がまず頭に浮かぶが、この内容について市民のコンセンサスを求める場合には、概念的な内容ではなく、かなり具体化した明確な内容を示す必要があるのではないか。</p> <p>例えば、ごみの問題を見た場合、対象は受益者を指すのか、それとも一般市民を指すのか等、議会等の関係で今ここでは言い難いかもしれないが、もう少し具体的な内容を示す段階にきていると思うがどうか。</p>
市長	<p>ごみの例で言えば、周辺自治体のごみを有料化し、ごみの減量化を図っているという意味からして、事前の準備が必要ではあるが、市民に求めていかなければならない局面が来ると思う。</p> <p>また、高岡広域圏でごみ処理場の建設を予定しており、人口割合等で一定の拠出金が固定的に決まってくると思うが、その他にごみの排出量によって各自治体の拠出金が決まってくる部分もあるので、市民に受益を求めると、それによってごみを減量化させて、ごみ処理場の建設拠出金を規模的に適切な拠出金にしなれば、市民に後で逆に不利益になってしまう。</p> <p>そういったことについても懇話会で言いたかったが、市民にまだ説明していないので、この程度に留めていた。具体的に話を進めるといふ段階になれば、当然市民に説明しながら、進めていかなければならないと思っている。</p>
委員	<p>この立派な提言を案のとおり実行されることを望んでいる。その面では P17にも書いてあるが、進行状況の管理を今後どうしっかりしたものにしていくかが懸念される。</p> <p>また、将来のまちづくりの展望については、本懇話会とは違ったメンバーで、若者を中心とした進行管理専門の委員会を立ち上げることも考えていくべきだと思う。</p>
委員	<p>4月から取り組んでいた行財政健全化、効率化に向けての提言書が出来たわけで、早期の執行と透明性の確保をしっかりとやっていってほしい。</p> <p>また、先程の意見にもあったが、市民のコンセンサスづくりをどういう風にしていくのか。早く市民に何が増えて、何が減るのかといった部分を理解してもらえようにすることが大事ではないかと思う。</p> <p>また、自分も触れたことがあると思うが、縮小という中にも元気のある部分を活用して効果を上げていくという風に提言書の中でもまちづくりの将来展望というところで触れているが、これは是非若い世代の代表として行ってほしいと思う。</p>
委員	<p>本当に立派な提言書が出来たので絵に描いたもちにならないように、これをどう見守って行って、どう実行してもらおうかが大変重要だと思う。</p> <p>また、氷見が良い所だということは、市民は皆知っているので200万人交流を目指して、どの土地から氷見に来てもらっても恥ずかしくないような、氷見はいい所だったと言われるようにしていかなければならない。</p> <p>言うだけなら金はかからないので、皆で氷見はいい所、楽しい所だとPRすれば良いと思う。</p> <p>改善後の収支見直しを見ていると、健全財政に向けて計画どおりやっていけば、</p>

主な発言内容(要旨)

委員	<p>58億の赤字を解消していけるのではないかという希望が出てきたように思うので、実現に向けて取り組んでほしい。</p> <p>あれも出来ない、これも出来ないではなく、あれも出来る、これも出来るという前向きな考え方で実行に移していただきたい。</p> <p>各委員が言っているように素晴らしい案が出来たと思う。これが実際に実行されれば素晴らしいと思う。</p> <p>市民のコンセンサスという部分では、7月15日に市長が市民と語る会を開催したが、その時に何人かの一般市民から3項目ほど質問があった。それが非常に今の状況をうまく表していたと思う。</p> <p>一人目は、氷見市はどうして単独でいくのかと今更ながらに言った。</p> <p>二人目は、市長の話を聞いていたら、氷見市は金が無いのでしょんぼりした小さな市になってしまうのではないかと言っていた。</p> <p>三人目は、市長は非常に頑張っているの、どうぞこれからも頑張ってくださいというものだった。</p> <p>当日の来場者は年配者が多かったと思うが、実際、年配者の感覚が今の3つの意見に分かれるのではないかと思う。</p> <p>この提言で示されたような形で、市を運営していかなければならないということ、市民に納得・賛同してもらうという過程においては、市も努力すると思うが、市の職員はサービス業であるという考えもあるようなので、市職員がそれぞれ住んでいる地域のいろんな行事に参加して、そういった中で出前講座みたいに市民から要望があれば行くというのではなく、「話させて欲しい」「語らせて欲しい」という姿勢で取り組んでもらいたい。</p> <p>ごみの問題の時もそうだったが、決して行政側からの一方的な説明で終わらせて欲しくない。もっと広く全ての市民に知ってもらえるような形で進めて欲しい。</p>
委員	<p>まず、提言の進行管理の部分について、最終的な結果報告だけではなく、途中経過も聞かせてもらいたい。これは各委員の一致した意見だと思う。</p> <p>また、労使協議の交渉及び結果の公表についても強く求めている。</p> <p>これは、言うまでもなく人件費の削減等、改革に大きく影響を与える部分なので具体的に中身を公表して欲しい。</p> <p>特に労使交渉は、過去何十年の経過があり、それなりの権益の問題もある。どこまで出来るかわからないが、少なくとも提言の具体的な数字をクリアするために交渉するのであって、今までのように縦割的に人件費の部分だけ切り離して進めていくのではなく、財政と人件費を一体的に考えて進めていかないと実現は不可能だと思っており、労使交渉の公表ということについて今後注目していきたい。</p>
委員	<p>本懇話会を振り返ってみると、良かったと思う点と気になっている点がある。</p> <p>まず良かった点は、この市民懇話会そのものであり、この懇話会の過程の中で市職員がいろいろ勉強になったことだと思う。もちろん委員もこの懇話会に参加することがなければ、こういった場面に接することはなかったと思う。</p> <p>また、気になっている点は、過去にも意見したが、市民の関心が低いのではないかという点で、どうも反応が鈍いように思う。本懇話会だけが一人歩きしているように感じてしまう。合併問題を論議していた頃、市民からはかなり辛らつな、これが本音なのかなという感じを受けて、今でも感激を新たにするようなアンケートとその中身の本音はどこに存在しているのかと問い起こしてみたりする。合併してもなくても、合併問題というのは、本質は自立だと思っている。</p> <p>従って、このプログラムが実行されていく、この4年間というものが、本当に市民の一人ひとりのこれからの氷見の10年先、20年先を考えてみた時の足腰を鍛えるものに足るものであるかということについて関心を持っている。</p>

主な発言内容(要旨)

2つの面で感じるのは、1つには、市民一人当たりの税収の低さというのは、詳しい内容までは別としても、市民も一人ひとりが認識している問題だと思う。その問題は4年間だけの問題ではないはずで、どういう風な展望が、試みられるのであろうかと、この辺に市民の基本的な単独市で行く場合の厳しさや、あるいは将来合併するための単独市としての氷見市民の1人としての決意というか覚悟を表しているのだと思う。

もう1つには、少子化の行方についてだが、氷見は広い市域なので少子化は深刻な問題であり、将来的にも市の大きな問題だと思う。

大袈裟に言えば、市の存立に関わると言えなくもないと思う。

国がグラグラ揺れ動いている中で、地方もなかなか動けないという考え方ももちろんあるが、税収が低いことと少子化が進んでいるという問題は、氷見独自の問題である。国からの手当があってもなくても、氷見は氷見として誰にも譲ることのできない自分自身の問題として中・長期の展望は必要であると思う。

その中で、この4年間というものが位置付けられて、市民に共感を求めていくのが正しい有り様ではないかと思う。この4年間の説明はよくわかるが、その後どうやっていくのかなという部分が見えてこないのだと思う。

委員

個人的な思いということと言わせてもらえば、無事これで大役が終わるかなという安堵の気持ちもあるが、一方で今後の方向によっては重要な委員という役を貰ったというプレッシャーもある。

今回、提言書という形でまとめたが、他の委員の意見にもあったように、市民のコンセンサスづくりというのが、改革を進めていく上でキーワードになってくるのかなと思っている。

これは、市民懇話会の提言として取りまとめたわけで、今後、市民が何らかの形で目にしていくことになると思うが、委員として言えば、市の事務局とすり合わせをしながら良いものが出来たと思っているが、一般市民から見れば、あくまでこれは市民懇話会の提言だろうとしか捉えないだろうと思う。先程、委員も言っていたが、市民の認識の薄さというのは、自分も感じている。この提言を受けた市側の対応として、今後は当然、いろんな意見の取りまとめが議会や行政等で行われていくと思う。是非、この提言に拘らずバージョンアップしながら進めていってほしい。

ただ、このままこの提言のとおり議会で承認され進んでいったのでは、懇話会の委員の方が中身についても詳しいし、議員よりもえらくなってしまうような感じがしてまずいと思うので、強く出るところ、温かく見守っていくところを見極めながら進めていってほしい。

また、当然のことだが、市民に今後の流れを公表することが大事で、意見にもよく出ているが、行政と市民との話し合いということで、行政からきちんと話をして市民の理解を得るとというのが本質だと思う。

行政と市民のチームワークを重視して、話し合いの場や意見交換の場というものをご希望。ある事柄が決まったから市民にやってもらうという姿勢ではこの改革は進んでいけないと思うので、住民の意見を十分に尊重するという場も設けてほしい。今までの行政の流れを見ているとややもすると市民の意見は取り入れられず、自治会長や各委員の意見を重視したものの考え方で、地域の状況や市の意見が取りまとめられるというのが、今までの行政のやり方だった。

近くでは高岡の斎場問題等もあるが、行政と一部の自治会だけで進めていこうとすると問題がまとまらない。

今、氷見市の問題を集約したわけだから、その辺に注意してもらって、ますます氷見市が良くなることを希望している。

委員

提言書案のP2で、市職員の給与について一律5%以上の削減を図らないと市

主な発言内容(要旨)

がやっていけないということは、ある程度明確に示されている。

そこで、これから組合と労使協議をしながら取り組んでいくわけだが、その中で1つ気になる部分がある。

それは、本懇話会から意見することではないかもしれないが、市長をはじめ市三役においては、既に給与の10%カットに踏み切っている。これに対して、議員はどのようなかということで、議会でもいろいろと検討しているという話も聞くが、実際、何%カットなのか、そしてそれが本当に実行されるのかというのが、なかなか市民には見えてこない。

これから組合と交渉を進めつつ、市民に対しても市民懇話会から出された提言を公表していくのであれば、提言の中でも議会の削減案を市民に示すよう強く望むとしているが、当然、市会議員の報酬カットという部分について、ある程度公表という形をとらないと市民も納得しかねると思う。あくまでこれは議会の中で決めることであるけれども、市民が一番気になるのは、人件費削減における市職員給与や議員報酬のカットの部分だと思う。是非とも早急に議会として報酬をカットするのかわからないのか、するなら何%ぐらいするのかということを決めて実行してもらいたい。

また、先日、労働界の代表という立場から懇話会会長に意見書を提出したが、今日の最終提言を受けて、市当局の方でも関係各所と交渉に当たっていくことだと思うが、とりわけ人件費とか人員配置の適正化といった部分になっていくと、どうしても労働条件に大きく関わってくる。前途多難な部分も沢山あると思う。

これまでの市のやり方を見ていると、一方的に押し付けるとまではいなくても、それに近い状況の中で進めてきたこともあったように思う。

よって、前市長の時代には何度かトラブルもあったかと記憶している。今回の提言の内容からして、その伝え方によっては、またトラブルの発生ということも考えられる。トラブル防止のためにも十二分な協議を労使間で重ねて計画を全うするようにまい進してもらいたい。

委員

今までの各委員の発言でほとんど語り尽くされていると思うが、工場協会の会長としてお願いしたいのは、今、社会は激変している情勢であり、氷見市においても、某旅館の民事再生法の申請というショッキングな出来事もあった。

まちの商店街においてもシャッター街という感じで、また、工場関係でも廃業とか倒産と言われるような所も多く出てきており、かつてない混乱が起きてきている。

そこへいくと、農林水産関係は、何となく市の温かい手が差し伸べられているような気もするが、商工観光の方にも市の指導とバックアップを今後ともお願いしたい。

委員

短い期間によくまとまった提言だと思う。ただ、出来ただけではダメで、180度考え方を変えてもらいたい。やるのは市職員であり、考え方を変えてもらわないといけない。上で決めたことが下まで伝わらないとダメで膝を突き合わせて各方面との話し合いに入って欲しい。皆、中途半端な話し合いをしているから、難問が解決していない。膝を突き合わせた話し合いが行われていない。また数字をきちっと出していない。それが尾を引いて、いろんな問題が出てくるのだと思う。

また、市役所が自分の会社だと思えば、市の職員も考え方が変わると思う。合併していれば議員は1人もいないし、給与カットの問題も出ないのであって、自立することを考えてほしい。自分の足で立ってほしい。自立するためには皆の協力を得ながら、どんどん意見を言って直して欲しい。

非常に良い提言書案が出来たので、本当にこれを実行して欲しい。やるのは職員だということを忘れないで職員に伝えてもらいたい。いろんなところで市長や上層部が指示しても下が動かないということが、氷見市にはよくあるので、そういう点で、もう少し公僕である、公務員であるということを忘れないでやってもらいたい。

主な発言内容(要旨)

委員代理 各委員の大方の意見がそうだと思うが、立派な提言書が出来たと思う。この後市の方では計画をたてて実行に移っていくと思うが、H18までの期間で時間の経過とともに情勢の変化というものも生じてくると思う。補助金等についても、1つ1つ細かく検討され、廃止・削減・継続といった具合に分類もなされているが、そういった意味では、継続に分類されているものでも情勢の変化によっては廃止や削減出来るようなものも出てくると思う。そういったところにも目を向けながら、今後、実施してもらえれば、改革が進むのかなと思う。

補助金等審査部会副部長 各委員から意見が出ているように、この提言はよくまとまっていると思うが、提言書案のP1の「提言に当たって」のところで、「出来るだけ地方交付税に依存しない自立型の行財政を目指し…」とあるが、地方交付税というのは、国からもらっているのではなく、財政の弱い自治体に金を渡すことが制度上決まっている。国が一括して集めた税金のうち、ある程度は地方へ交付するという約束のもとに成り立っており、地方固有の財源だと昔から言われている。地方交付税に依存しないで氷見市がやっていけるわけがないわけで、72億円という大きな交付税をもらっている。これを国がいくら減額してきたところで、市税を下回することは絶対にはないと思う。

また、52億円の市税は、そんなに増えていかない。市税さえ増えてくれれば、交付税は減っていく。そう考えていくと、「できるだけ自立型の行財政を目指し…」でいいのではないかと思う。交付税に頼らないということは、あまり言わない方が良くはないかと思う。

それと、1つ気になっていることは、国が三位一体の改革と言いながら、なかなか内容を明らかにしないということで、補助金を減らすぞと言っても、どういう風に減らすのかは言わない。また、減らした補助金の7～8割は国が面倒見ると言っているが、一方で交付税を減らすと言っている。どのあたりを減らして、どこで穴埋めしてくれるのか、また、交付税がどういう減らされ方をするのかははっきりしないと本当の将来の財政見通しは立てられない。

現状では、市の方で行ったような見通ししか立てられないと思う。そういう点から言うとな財源移譲と言って、一体どんな財源を移譲してくれるのが非常に気になる。補助金を減らすのは国が出す立場だからどうこう言えないが、その7～8割を財源移譲すると言うその財源は一体何を予定しているのかということ、未だに国ははっきりさせない。国は走りながら考え、ポツンと言ってはまた走り出す。これは市が財政の見通しを立てる上で大変厳しい。そういうことから言うと、今後の財政見通しというのは、常に見直しを掛けていく必要があると思う。

もう1つには、提言の中にも書いてあるように、現在、氷見市は非常に多くの借金を抱えているが、時期によっては、かなり高い利息の資金借入を行っている。今は低利だが、高いもので5～6%の高利で借りて返済しているのではないか。これを繰上償還しようとしたり、繰延べするには、国の許可が必要だが、国はなかなか許可しない。そういうことも考え、国に認めさせることも考えていかなければならない。今の低利の時代に5%の高利では大変である。

また、提言では職員数の削減についても触れている。これも大変厳しい問題で、全国の類似団体以下の職員数に抑えるということだが、非常に重要な問題には間違いはないが、類似団体の平均を上回っている部門がどの部分か見てみると、保育所や学校、農業の部門であり、地域の特性から考えて、地形的にそう簡単に減らせるものではない。保育所を全部で3つにして皆そこに行けと言って、そんなに簡単にいくものではない。

学校についても同様のことが言える。農業についても、現在の情勢から見て類似団体平均以下にするのは難しいかもしれない。

ただ、取り組まざるを得ない。その点、市長は非常に大変だと思うが、頑張っても

主な発言内容(要旨)

らいたい。

昭和39年に八代で地すべりがあった時、災害関係の事業がもの凄く増えた。その時に技術職をかなり多く採用した。年の経過とともに、事業は終了するが、だからといって職員は減らせないということがあった。

民間でできることは民間でとも提言に載っているが、これからは非常に大切になってくる。

それともう1つ、この懇話会の委員は1年の任期であり、この改革の進行経過のチェックはどうしていくのが大切になってくる。この懇話会は提言を行った時点で一応は解散という形になると思うが、後のチェックとか、数字の見直しなどについて何らかの形のものが必要になってくると思う。

これらを実行していくことは、大変厳しいと思う。その中で頑張っている市長をはじめ、市の職員も苦労したことと思うが、これからも努力していてもらいたい。提言には納得している。

補助金等審査部会長

いよいよ提言書案が出来上がったが、こういった懇話会が開かれているということは、県内各地でも関心を持って見ているということも聞いている。同時に市民の認識の薄さについて意見が出たが、市民にもこういった懇話会の存在については認知されていると思う。

提言書がまとまり、提出されたということになれば、それをどう実行していくのかということが大事になってくる。皆が関心を持って見れば見るほど、この提言が出た後にどう対処し、諸問題を解決していくかということをも早い段階で出していけないと、ますます市民の不信感が噴出したり、周囲からも氷見は何をやっているのかといったことになってくる。

この提言は非常に厳しい内容なので、そう簡単には結論の出る問題ではないと思うが、例えば職員組合との交渉などについても、なるべく早い段階で出して、とにかく気持ちを一つにしてこの問題に取り組んでいるといったものを市民に示してもらいたい。大変だとは思いますが、頑張ってもらいたい。

また、先程から各委員の意見を聞いていて、1つ気になっているのが、懇話会がチェック機関として、状況の報告を求めるということについて、果たしてチェックするのは、この懇話会の仕事であろうかと多少疑問に思う。形としては、市長の要請に応じて、この懇話会が提言していくというもので、それを実行するかしないかは、市長の責任でやらしてもらわないわけで、しなければ市長の責任ということなのではないか。

提言もなるべくであれば、このとおりやってもらいたいですが、政策的な問題もあって、提言どおりに出来ないこともあるとは思いますが、何らかの形で提言に対する答えを出していてもらいたい。

ただ、そのことについて我々がチェックする必要があるのかなと思う。むしろ議会でもこの提言を見ているわけだから、チェックの部分は議会に預けてもいいのではないかなと思う。

行財政健全化部会長

この提言書はおかげさまで何とか出せるところまで来た。各委員に感謝したい。当初、部会長になってほしいとの依頼があった時には、本当にやり遂げられるのか不安と責任の重さを感じた。ただ、4月にこの懇話会を立ち上げ、およそ4ヶ月の間に5回にわたり市民懇話会を開催し、その中の部会として行財政健全化部会も何度か開いてきた。各委員の意見を集約した結果、このような立派な提言書が出来たものと思っている。

個人的な思いとして言わせてもらおうと、本当に氷見市役所も民間の企業になったと思う。また、なってもらわないとこの行革は出来ない。思いは沢山あり、各委員の意見に述べられたとおりであるが、現実には厳しく、本当につらいこの先4年間であ

主な発言内容(要旨)

り、この行革ではないかと思う。

ただ、市民は待っていると思っている。先般、市長の講演を開催し、多くの市民が集まって、その中で質問や、後で講演を聞いていた市民に感想を聞くと、市長の決意は伝わったと、市民は市長を応援するので安心して正々堂々と取り組んでほしいといった意見もあった。

大変つらい行革ではあるが、まだ4年間あると思っては困る。4年間しかないのであって、4年間で改革をやり遂げて初めてスタートが切れるということであるので、

58億円の赤字を解消するにあたって、人件費での多大な経費の節約を挙げており、民間企業で言えば、まさしくこの部分にメスを入れながら抜本的な改革をやっているのが現状なので、氷見市役所も民間企業としてのスタート地点に立ったと思う。

実行・継続・挑戦というのが自分のモットーで、大きな山が沢山あると思うが、委員の提言等により、立派な提言書が出来たので、この場に集まった者達、特に市長はじめ責任ある役職員や議員と、同じ場で、共通の時間を持って、この改革をやり遂げるという誓いの言葉を聞いたので、自分も微力ながら応援したいと思っており、頑張ってもらってほしい。

会長

各委員からいろんな意見をもらったが、特に提言書を作っただけでは駄目で、実行しなければ意味がないというのが、皆の共通した意見だと思う。

そういう意味では、どんなに立派なものを作っても実行しなければ意味がないということであらためて痛感している。改革を進める上でいろんな困難はあると思うが、それを克服していかなければ今後の氷見市は無いということで頑張っていかなければならないと、市民も市職員も議会も一体となって取り組んでいくことが大事だと思う。

それから、労働界の代表委員から市民懇話会長宛てに出された提言についてだが、内容を見てみると、労使協議交渉での合意形成等の所要措置に遺漏なき対応を求めるとのことだが、これについては懇話会に出されてもどうしようもないと思う。労使交渉は一生懸命してもらわないといけないが、合意形成ということになると、本懇話会で扱う問題と、問題が違うのではないかと思う。

松下電器の精神に、良き経営は従業員の真に和親一致の協力を得なければ出来ないという言葉がある。組合交渉といった形式ばったことよりも、例えば、市三役や各部長がいるのだから、部長を交えた小さなグループで部別や年代別で、自由に気軽に意見交換が出来る場を作ってもらい、気軽に要望や不平・不満といったものを納得するまで話し合うといった機会があれば良いと思う。

労使交渉は必要ではあると思うが、そういったことも大事なのではないかと思う。

それによって市長も誠意を持って対応し、職員も市長の意向を十分に理解して行動するというようになってくるのではないかと。

先程の委員の発言では、労使で信頼関係があまりうまくいってないのではないかと、言っているように自分には聞こえたが、やはり両者の信頼関係のないところには、なかなか協力関係は生まれないであろうし、いろんな経過の中から市民との距離も近くなるのではないかと、思っている。

いずれにしても、市職員が市民の先頭に立って難局を乗り切ってもらわないとどうにもならないという思いでいっぱいである。市職員一人ひとりが情熱を持って、ここを乗り切らなければならないという気持ちで、頑張ってもらいたい。誇りの持てる地域、誇りというのは非常に大きな力になると思う。そういう意味では、氷見市でなければ出来ないのだという誇りを持てる市づくりを目指して、誇りが力になると、心意気こそが力になるという気持ちを持って、皆で頑張っていきたいという思いでいっぱいである。

主な発言内容(要旨)

それから、チェック体制についてだが、やはり懇話会として提言をするわけなので、その後どうなったのかということも報告してもらいたい必要があるのではないかと意味で言ったのであって、提言書が出来たからそれで終わりというのではない。

本懇話会の各委員は各界各層の代表でもあり、この改革に対しずっと関心を持ち続けてもらいたいという意味であるので、市の方でもそういった体制を整えてもらいたい。

先日、本を読んでいたら小さな大都市という言葉が出ていた。どんなに小さな自治体であっても柔軟な行政運営によっては大都市に匹敵するほどの行政機能が発揮できるというような意味らしいが、小さいなら小さいなりに皆が一生懸命に、特に縦横の枠を外して柔軟に取り組んでいけば、大都市並みの力が発揮できるのではないかと思っている。

そういうことも含めて市の職員には本当に頑張ってもらいたい。

本当に長い間つたない会長で迷惑をかけたと思うが、皆のおかげでこのように提言をまとめることが出来たことに感謝している。

市長

提言書をまとめてもらった会長、副会長、両部会長そして各委員には心から感謝したい。真剣に議論してもらったが、この提言をもとに議会の意向も加えてプログラムを作成し、実行に移していきたい。

先程からも心配をしてもらっているが、実行段階では厳しいことも予想される。

前回も言ったとおり、出来なかったでは済まされない。市長が責任をとって済む問題でもない。全力を尽くして実行したい。

きっと、市民にも市職員にも氷見市のこの難局を理解してもらい、協力してもらえることと確信している。各委員にも力添えをお願いしたい。

会長

それでは閉会にあたり副会長から一言いただきたい。

副会長

市長の要請により、約5か月にわたって開催してきた行政改革推進市民懇話会は今日で一区切りとなるが、個人的に思っているのは、行政、特に財政政策というのは気の緩みや馴れ合いによって左右される面が多々あるのではないかと思う。それ故に永遠の課題とされるのではないかと思う。

また、現在、市町村合併の問題が議論され、平成の維新とも言うべき時代に来ていると思っている。

そういった中で、会議を重ねて真摯に協議され提言が出来た。この懇話会の提言は1つの重要な方向付けであり、これが空論にならないように自助努力していかなければならない。

また、市長をはじめ、職員に対する一層の引き締めが提言されているが、今後とも市民と行政が一体となって、両者が痛みを分かち合い市勢発展のために頑張っていかなければならないと思っている。

また、個人的には途中、体調不良により入院してしまい迷惑をかけたが、副会長不在の間もいろいろ議論してもらったことに対し、感謝と敬意を表し、あいさつとしたい。

会長

以上をもって本日の会議を終了したいと思う。この提言書については、8月7日に市長に提出したいと思っている。